

「みどりの食料システム戦略」の実現に貢献する 2030 年までに利用可能な技術を紹介！ ～技術カタログ（Ver.2.0）を公開

農林水産省は、みどりの食料システム戦略の実現に向け、戦略の各目標に貢献し、現場への普及が期待される技術を取りまとめた「みどりの食料システム戦略」技術カタログを公開しています。

カタログ（Ver.2.0）では、作目別に 81 件の技術を追加収録しており、技術開発の目指す姿・目的、期待される効果、みどりの食料システム戦略における貢献分野（温室効果ガス削減等）、これまでの研究開発成果・進捗状況、今後の開発スケジュール、技術の問い合わせ先等を記載していますので、ぜひご覧下さい。

技術カタログ（Ver.2.0）の掲載事例

高温登熟性に優れ、病害虫複合抵抗性を
もつ良食味の水稲新品種「彩のきずな」

問い合わせ先：埼玉県農業技術研究センター
TEL：048-536-0311 e-mail：k360311@pref.saitama.lg.jp

市販化

温室効果ガス

農薬

肥料

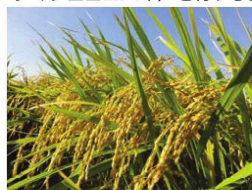
有機農業

その他
(気象災害の回避)

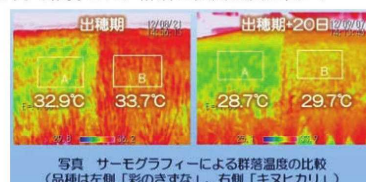
生産 品目：水稲

技術の概要

水稲の高温障害対策や減農薬栽培への対応のため、「彩のきずな」を育成した。
本品種は、①登熟期の高温による白未熟粒の発生が少ないため、玄米品質が低下しにくい。②病害虫複合抵抗性（イネ縞葉枯病、穂いもち、ツマグロヨコバイ）を有する。③短稈で穂数が多く、千粒重は重く、収量性は高い。④粗タンパク質含量はやや高いが、アミロース含量は低く、良食味である。



- 高温時にも※気孔コンダクタンス、光合成速度、蒸散速度が高く維持され、群落の表面温度は低い。



※気孔における水蒸気や二酸化炭素などの通りやすさを表す指標

導入の留意点

- ・ **多肥を避ける**
穂数が過剰になると登熟期間の天候不良により屑米が増加しやすい。
- ・ **障害型冷害に弱いため早期栽培は避ける**

その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

- 栽培可能地域 埼玉県（利用範囲は埼玉県内に限る。）
- 普及の状況（埼玉県内）
2020年栽培面積：6,300ha
(水稲作付面積の19.7%)
- 販売の状況（埼玉県内）
JA直売所、量販店



関連情報

「彩のきずな」について
(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0904/komemugidaizu/kizuna.html>)

効果

- ◎ **高温障害軽減による1等米比率の向上**
埼玉県産水稲品種の1等米比率平均よりも17ポイント向上した。
- ◎ **都市近郊農業に対応した減農薬栽培の促進**
病害虫複合抵抗性を有するため化学農薬の使用量の削減が可能である。
- ◎ **食味ランキング「特A」を獲得**
一般財団法人日本穀物検定協会が実施する食味ランキングで最高評価「特A」を獲得した。

(注) 掲載技術の詳細につきましては、カタログ上部の「問い合わせ先」までご連絡ください。

詳細は、農林水産省の HP をご覧下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

出張先のカンボジアで農業に目覚め、帰国後寄居町で露地野菜を中心に年間約70品目の有機農産物を1人で生産し、町の農業塾で講師も務めている井伊 誠さんをご紹介します。

川口市出身の井伊 誠さんは、会社勤めをしていた際に仕事で訪れたカンボジアで現地の農業に触れたことを契機に、会社勤務のかたわら府中市の市民農園で野菜栽培を始め、農業への熱い思いが一層高まったことから退社して農家を目指すこととしました。

まずは、小川町の農家で有機農法を1年間学び、翌年からは寄居町の農家にて更に有機農法の研修を受け、同町で50aほどの農地を借りられたことから、5年ほど前に有機農法の露地野菜農家として自営就農しました。現在は農地を増やして、普通畑1haと田30aの経営規模で露地野菜、米、麦など約70品目を一人で生産しています。昨年からは同町の農業委員会主催の「よりの週末有機農業塾」の講師も務めています。

販売先は、深谷市内のスーパーや近隣の飲食店のほか、宅配やネット販売にも取り組んでいます。また、近隣の小川町や嵐山町などで有機栽培に取り組む25名のグループに加わり、近隣のスーパー4店舗にグループ専用の販売スペースを借りて委託販売も行っています。

井伊さんにとって作物を育てる上で大事なことは何かとお聞きしたところ、「健全な土が病気にか



圃場(写真奥がねぎ、手前は収穫終わりのトマト)

かりにくい健康な作物を育む」「与える肥料を少なめに
して健康な作物を育てることを心がける」「健康な作物
なら農薬はいらない(有機JASで認められた農薬であ
っても使わない)」「育てやすさ、売りやすさよりも『おい
しさ』を重視」をモットーに栽培に取り組んでいるとのこ
とでした。

今後の目標については、「地域の荒れ地を減らすこ
とで、里山も含めた農の環境全体を復興させていくこ
とが必要であり、そのためには「よりの週末有機農業
塾」などもきっかけとして田畑を使う人を増やし、地域
環境の回復に結びつけたいですね。」と語ってくれま
した。

井伊 誠 さん

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心 2-1 さいたま新都心合同庁舎 2号館

TEL 048-740-5835 FAX 048-601-0510

＜関東農政局HP＞ <http://www.maff.go.jp/kanto/>